

私は毎月、大阪城ホールの中のホテルニューオータニという所で聖書の講演会をやっています。この前、栃木県からお父さん・お母さん・3人の息子さんの5人家族で聞きに来て下さって。真ん中のお子さんが中学1年か2年なんですけど、彼が最初にYouTubeでこの動画を見て、それをお母さんに伝え、お父さんに伝え、お兄ちゃんや弟に伝え、結論申し上げれば今全員クリスチャン。近くの教会に通っています。

末っ子が小学校4年生で、誕生日が近いので何が欲しいか聞いたら「生で話を聞きたい。」それで栃木県からわざわざ。小学校4年といたら10歳です。10歳の子が大人向けのお話を一生懸命聞いて。やっぱり、興味が同居すると大人の話でも聞くんですね。そして終わったら、トコトコと私の所まで来てくれて、めちゃくちゃ嬉しい事を言ってくれました。「僕も大きくなったら、高原さんみたいに、イエス・キリストの事を色々な所で話をするユーチューバーになりたい。」ちょっと最後は違うぞ。めちゃくちゃ誤解してるぞ。キリスト伝道者っていうんですけど。「僕には一緒です！別に、ヒカキンになりたいと思ってないし。」でもね、すごく嬉しかった。なぜかと言うと、よくよく聖書のメッセージを聞いてくれたわけですから。

聖書の中に、こういう言葉があります。

**ローマ 10:17** 信仰は聞くことによって始まり、聞くことはキリストについてのみことばによるのです。

信仰というのは、独りで生まれてくるものじゃない。信仰というのは、聞く事によって始まる。聞いて腑に落ちた時に、既に信じる者に変えられている。

では、何を聞くのか？それは「キリストについての御言葉」。これを「福音」と言います。福音とは「聖書によって解き明かされたイエス・キリスト、このキリストこそ、あなたの救い主ですよ」というメッセージなのです。

今日は、『福音の中の福音』という箇所を、皆さんと見たいと思っています。聖書は世界のベストセラーという事で、非常にワクワクしながら手に取って読んでみて、ガッカリしたというか、途中で挫折した方って案外多いんじゃないですか？僕は自慢じゃないけど、クリスチャンになって、救われて1年間、聖書を殆ど読みませんでした。聖書の参考書というか、信仰書というか、そんなのばかり読み漁って、聖書そのものに向き合うという事がなかったのです。

今はもう、聖書を読まない日は一日もないですよ。それはね、楽しいから。何で楽しいかという、分かるからなんですよ。どんなに素晴らしい本でも、分からないとつまらない。皆さんが学生時代、どうして勉強がつまらなかったのか？分からなかったからです。

聖書がなぜ分からないのか、いくつか理由がありますが、その内の一つは、ある意味専門用語によって書かれているから。だから日本語に翻訳されてはいるのですが、一つひとつの言葉の定義が解き明かされ、解説されない限り、分かったような分からないような、頭の上の方をスーっと過ぎて行ってしまいう事になるのです。そこで今日は、『聖書の福音の中の福音』と言われている**ヨハネの福音書 3章 16節**から、言葉を解説する事で、皆さんの理解のお手伝いをさせて頂いたら幸いかなと考えています。

まず、今日のテキストの箇所、新約聖書を一緒に見ましょう。

**ヨハネ 3:16a** 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。

最初の言葉から説明します。「神は」。聖書で語っている神という言葉は、実はクリスチャン以外の人も使っている言葉です。しかし、私たちが今まで使っていた神と、聖書が語っている神の定義は全然違う。日本人が今まで聞いてきた神々というのは人間が作った神の事。しかし、聖書が語っている神というのは、人間をお造りになった方。あなたの作者です。私は、私に作者がいるという事を感じる時に、或いは考える時に、ものすごい人生の希望を感じます。

2月末、大杉漣（おおすぎ れん/1951-2018）さんという俳優さんが突然亡くなりましたね。僕は大杉さんの事が好きでした。朝の連ドラに、違う役で連続して妙に出る。NHKは大杉さんの事、好きと思いますよ。それが急性心不全で、突然ロケ先で亡くなりました。皆大きなショックを受けましたが、中でも北野武（きたの たけし）が、テレビ番組で彼の事を語っている時、途中で泣き出した。余りにも突然の死。

大杉さんは長い下積み生活の中で、40過ぎてブレイクします。彼が引っ張りだこの有名な俳優になったきっかけは、北野武監督の『ソナチネ』というヤクザ映画に出演した事なんですね。彼はそのオーディションを受けるのですが、何と皆さん、1時間遅刻するんですよ。一番大事な時に遅刻する人って、私、身近な感じがするんです。私も大学受験でかましましたからね。

オーディションが終わって後片付けの時に、彼がダダダと入って来て「すみません！チャンス下さい！」でも、もう片付けている。「どうしてもやりたいと言うなら、君だけ台本なし・脚本なしでアドリブでやってみよう。」監督が色んなシーンを言って、彼がアドリブで返していく。そのアドリブ演技が見事で、この人採用！それから北野武監督の映画に続けざまに出て、すごく有名になっていきます。映画と一緒に作っていく中で、「出演するだけではなくて、北野武のように自分もエグゼクティブ・プロデューサーとして、映画そのものを総監督する立場になりたい。俳優として出演するだけではなくて作る側になりたい」という野心が湧いて来て、その念願が遂に今年叶ったんです。

その映画のロケを全部撮り終えて、暫くしてから心不全で亡くなりました。彼が最後に作ったこの映画、プロデューサーとしても、また自分が主演を演じているという事でも、記念碑的な作品になったのですが、彼の役はキリストを宣べ伝える牧師です。この映画のタイトルが『教誨師』（きょうかいし）。「教」は“教える”。「誨」は“諭す”。「教誨」で“教え諭す”。誰を？ 刑務所に入っている受刑者を。一人の牧師が6人の死刑囚に対して一対一で向き合っていくながら、一人ひとりを悔い改めに導いていくという映画。今年の10月封切り。期待値上げ過ぎて「なんやねん！」という事がよくあるから、割り引いて聞いて下さい。私もちゃんと見てないから。教えてもらった情報を皆さんに言ってるので。

教誨師の働きはボランティアです。なので給料はありません。完全ボランティア。教誨師は死刑囚と対面し、面談する事ができる唯一の民間人。自分が面談している死刑囚が最終処刑場に至るまで立ち会う人。教誨師をしている人の多くは牧師、或いはキリストの伝道者です。

そこで大杉漣さんは役作りのために、牧師やキリストの福音を知っている者の気持ちを知ろうと、一心不乱に新約聖書を読んだと言っています。それから暫くして亡くなりました。彼がクリスチャンになっていたかどうかは分かりません。分からないけれども、亡くなる直前に、真剣勝負で新約聖書に向き合ったんですね。

僕の友人に教誨師をなさっている方が何人かいます。なぜ牧師がこのような働きをする事が多いのか？一つは聖書に基づく人間観。聖書によると、人間は偶然生まれたものではなく、神によって造られたもの。ならば、その作品である人間が傷ついたり壊れたりした時、作者はその作品を直す事ができる。

宮崎に、私がよく知っている宣教師で教諭師の人がいます。彼は受刑者たちと会う時に、まずクリスチャンになる前の自分の姿をスライドで見せるんです。彼は麻薬中毒患者でした。麻薬中毒の時の顔って人間の顔をかぶったモンスターのようなようです。瞳孔開いて、生ける屍。食欲ないからガリガリ。まあ、恐ろしい。一目見ただけで「ああ、廃人だな。」

『人間やめますか？ それともクスリやめますか?』というコピーがありましたが、文字通りそんな状態。そんな自分のかつての姿をスライドで、これでもかこれでもかと見せて、そして、こう言うそうです。「しかし私は、神の恵みによって、今の私になりました。」

人間は作者によって変わる事ができる。作者であるならば、人を変える事ができる。創造主なしに「自分の努力で・修行で・勉強で何とかしなさい」という事だったら「無理!」かもしれませんが、「人が自分でできない事でも、神は何でもできる全知全能者である。」この聖書に基づく人間観があるから、向き合っていく事ができるのです。

神とはどんな方ですか？ 私たちをお造りになった方。私たちを造り変える事がおできになる方。あなたの魂の親である方。親である方が子に対して・自分の作品に対して、愛を込めて語ろうとしている事・愛を込めて伝えているメッセージがこれです。

**ヨハネ 3:16a 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。**

神様は愛して下さった。誰を? 「世」を。これも専門用語。「世ってナニ?」「世って分からない。」

「世」とは罪人たちが構成している世界の事です。「じゃあ、罪人(つみびと)って一体何なの?」創造主から離れて、背中を向けて「神などいても関係ない」というように背いた人・神様なしに生きている人・神から独立して生きている人を、聖書は罪人と言います。

昔、『こころのチキンスープ』というシリーズの本がありました。その中に、ジェイソン・ボカロンという人が書いた『父の思い出』というエッセイがあります。彼が16歳になった時、車の免許を取りました。アメリカは車社会ですから、車がなかったら不便です。彼は車を運転する事はできる。免許証を持っている。でも肝心の車を持ってない。家にあるのは親父さんの車で、許可なしに勝手に運転できません。お父さんがいつもキーを持っているから。「運転したいなあ!」

僕は営業マンとして入社して、無理やり車の免許証を取らされました。無理やり。ある時支店長が、助手席に座っている私に向かって、「キミ、おかしいと思わんか? なんで、新入社員が助手席に座って、支店長がおまへの運転手するんや? おかしいと思わんか?」「いや、別に思いませんけど…」「アホか!」という事で無理やり。取りたくないのに取って。私にとって、車は移動手段にしか過ぎないんです。運転するのが好きな人もいるでしょうが、私は別に。車に全然興味ない。

でも、ジェイソンは運転したくてたまらない。そうしたら、お父さんから素晴らしい提案がありました。「明日の4時に家から30キロほど離れた所に、車で父さんを迎えに来てくれないか。その前に、この車を修理工場に預けて点検してもらって。すぐに済むから。チェックを終えてから、整備した車で4時に迎えに来てくれ。」「お父さん、ありがとう!」

二つ返事で彼はキーをもらい、初めての事で、余裕を持ってかなり早目に出発したので、修理工場に着いた時には時間がすごく余っていました。「こんな何時間も、何して時間潰そうかなあ。そうだ! 映画でも見よう!」映画館に入って面白いアクション映画をワーワーって観て、ふと時計見たら6時。「しもたっ! 2時間も遅刻! まずい!」すぐに工場まで行って車を引き取り、急いでお父さんの所に行くんですが、「こんな理由で2時間もお父さんを待ちぼうけさせたという事が分かったら、二度と車を貸してくれないだ

ろう」。それで「遅かったなあ」とお父さんが言った時、「点検がすぐに済むと思ったら、あちこちトラブルがいっぱいあって、あそこもここも修理という事ですごく時間がかかったんだ。」

するとお父さんが、「嘘だろう？ 父さんは工場に電話した。そしたら、息子さんは車を預けて、いつまでたっても取りに来ないって。どうして父さんに嘘をついたんだ？ 本当の事を言ったら、嫌いになるとでも思ったのか？ はっきり言おう。父さんは今、非常に腹立たしい。でも誤解するなよ。おまえにではなくて、自分自身に対して腹立たしいんだ。父さんは息子と良い関係を築き上げるのが夢だったし、そんな父親であろうと頑張ってきたけど、どうも父さんの育て方が間違っていたみたいだ。私は歩いて帰るから、おまえは車に乗って帰れよ。」「でもお父さん、家まで 30 キロあるよ。」「いいんだ。ほっといてくれ。」お父さんは 30 キロ、ダメな自分を責め、頭を冷やすために、寂しそうな後ろ姿でトボトボ家に向かって歩いて行く。それを時速 6 キロで（難しいよ、これ。マニュアルで、何回もエンストしながら）、「お父さん、もう赦してよ。もういいじゃない」。だけど、手を振って「ほっといてくれ。」

それから 40 年 50 年経って、「自分自身が父親になった時、父がどうしてあんなに怒ったのか、なぜ、あんなに自分を責め、激しく怒ったのかという理由が分かるような気がした。」

元々信用がない人、元々自分にとってどうでもいいと思っている人が、自分に嘘をついたり裏切ったりしても、ショックはあまり大きくないと思います。「お父さんが僕に対してあんなに激しく怒ったのは、僕をとびっきり自慢の息子だと思っているしてくれたからに違いない。あの怒りの激しさは、僕に対する愛と関心の深さの裏返しだったんだ。僕はお父さんの心を傷つけた。申し訳なかったという事を思い出す」というエッセイ。

最初に造られた人間アダムは、神が「取ってはならない」と言った善悪の知識の木から取って食べました。「そんな神様の言葉なんか、いい!」と、神よりも悪魔の言葉を信じて神から離れたのです。その罪人の子孫が私たちです。

罪とは一体何でしょう？「神は関係ない。」「神に嘘ついても関係ない。」「神がどう思おうが関係ない。」「私の人生は私のものだ」と、神から離れて生きる事・神をいないも同然の存在として扱って生きる事を聖書は「罪」と言うのです。ところが、**神は世を愛された。**

同じ本の中に、クリフトン・デイヴィスという黒人少年の話が出て来ます。1959 年 13 歳。卒業旅行があるので、お母さんに「旅行の費用、これぐらいかかるんだって」と言ったら、「これね…払えない…無理。」彼のお父さんは二度目のお父さんで、石炭をダンプカーに積んで運ぶ運転手。お母さんは看護師で、夜勤が多くて、中々顔を合わす事もできません。共稼ぎですが、借金を返すためにいつも働きまくっていて、「君の卒業旅行のお金出せない。ごめんね…。」だけど、どうしても行きたい。行き先はワシントン DC と、当時ディズニーランドよりもすごいと言われていた遊園地グレンエコー。

僕もワシントン DC は一度行きたい。行った方が「あそこは別格のアメリカだ。ワシントンは違う」と言う非常に設計されている都。なんですけど、それよりも、そんな由緒ある所よりもグレンエコー。

日本の中高生の卒業旅行とか修学旅行でも、昔は京都・日本の都。それよりもはっきり言って、今はユニバーサルスタジオでしょ。

彼は新聞配達をして、キャンディを売り歩いて、休みの時は芝刈りのアルバイトをして、締め切り 3 日前にお金を揃えて、払って、「卒業旅行に行きます!」自分で労苦して行く旅行ですから、もうワクワクして嬉しくて。

そして、ワシントン DC のホワイトハウスの近くのホテルで相部屋になったのがフランク・ミラー君という白人の少年。クリフトン君は黒人です。でも、気が合う。面白いなあって、すぐに仲良しになりました。隣の部屋からも「俺たちも混ぜてくれよ」と 10 人くらいで楽しく過ごしていたら、担任の先生がやって来てクリフトン君だけを呼んだ。「ちょっと言いにくい話なんだけど、実はメリーランド州という所は未だに人種差別がある。そして、グレンエコー遊園地はメリーランド州にある。」「先生、何が言いたいんですか?」「グレンエコー遊園地の経営者は黒人の入場を拒否している。だから君は入れないんだ。でも、先生が君と一緒にこのホテルで過ごすから。」

彼はね、もう、ショック。ただ皮膚の色が違うというだけで、そんな扱い受けるなんて。「なんでだー!？」もう記憶も飛んでしまって、余り分からない。とにかく部屋に入って、ベッドに倒れ伏して泣いていた。するとフランク君が「おまえ、どうしたん? 何があったん? 先生に何言われたんや? 俺に言えよ。」  
「俺は黒人だから、グレンエコーに入れられないんだ。」「なんだ、そんな事か。」「そんな事かって、俺の気持ち分かるんか!?!」「おまえが行かないんだったら、俺も行かない。」

すると、「どうした? どうした?」って他の部屋の子たちが寄って来て。かくかくしかじかだと。「じゃあ、俺も行かない。」「私も行かない。」10 人くらいが「グレンエコーが俺たちをボイコットする前に、俺たちがグレンエコーをボイコットだ!」10 人くらいにボイコットされても、びくともしない遊園地ですけど。

この子たちみんな、めちゃくちゃ行きたいんです。本当は。行きたくなくなって行かないんじゃない。行きたいまんまなんです。今でも行きたい。行きたい…ので、それを断念して、彼と共にいると言うのです。自分たちにとって、めちゃくちゃ宝物であるものを諦めない限り、傷ついた友人を励ます事はできないと思った時、それを手放した。

「もう何十年も前の話だけど、それを思い出した時、深く心の中に訴えて来る。素晴らしい乗り物に乗っても、時間と共にその記憶は色褪せるが、素晴らしいものを断念してでも、自分の傍らにいてくれた友達の話は、時間と共に一層鮮やかになる。こんなにいい友達に恵まれたんだ。僕は愛されていたんだ。それは友達だからです。」

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、神の友を愛した。義人を愛した。立派な人を愛した。愛の人を愛した」と書いてあるのではなく、**神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。**世というのは、言い換えたなら「敵」です。神は、そのひとり子をお与えになったほどに、敵を愛された。

どこか行きたい所があるけど、憧れの人・以前から知り合いになりたかった人・尊敬する人・すごい美人やイケメンと一緒にいるためには、それを諦めてもいいとなるかも分かりません。だけど、お尋ね者・乱暴者・一緒にいて迷惑をかけて来るような者のために、自分が一番大切にしているものを手放すという発想がありますか?

神は、それをして下さった。イエス・キリストはインマヌエル（神が人と共におられる）という事を実行するために、父なる神様との交わりを絶たれて、私たちの罪を全部背負って、十字架にかかって下さったのです。私たちを愛してそのようにして下さった方がイエス・キリストなのです。

**ヨハネ 3:16b それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**

御子は、神のひとり子イエス・キリストの事。御子を信じる者とは、イエス・キリストは神の子であるという事を信じるだけではなく、神の子であるキリストが、私たちのためにして下さった事を信じる者の事。

この方は、私たちのために何をして下さったのでしょうか？ 1 番目、罪を背負って十字架の上で死んで下さった。2 番目、墓に葬られた。3 番目、死後 3 日目に聖書の示す通りによみがえられた。死と葬りと復活を成し遂げて下さった。それによって、私たちに永遠の救いを完成させて下さった。これを信じる。

今日のテーマは『御子イエスを信じる信仰の重要性』。もっと良いテーマ、もうちょっと馴染み易いのも考えましたが、でもこれにしようと思いました。御子イエス・キリストを信じる信仰。御子を信じる者は永遠のいのちを持つと書いてありますが、「なぜ聖書は信じる事・信仰という事を非常に重要視するのか」を考えたいと思います。

4 月 8 日に愛媛県松山刑務所の大井造船作業場で、平尾という容疑者が脱走しましたね。延べ何万人もの警察官が捜しまくって、20 日以上経ってようやく発見されました。「あんな、ど素人の脱走を一人見つけるのに、何万人の警察官を投入しても中々捕まらないなら、もし北朝鮮のプロフェッショナルの作業員が入ってきた時、どうなのコレ？」という心配をしながらも、色々考えてみました。

彼ははじめ、向島（むかいしま）という所に潜伏していたけど、瀬戸内海を泳いで渡った。服が濡れないようにビニール袋に入れて、瀬戸内海を渡ったんですよ。盗んだバイクで広島行って。尾崎豊（おざきゆたか）かと。どないなってんねんと。そして、人が住んでいる家に風呂の窓から入って、住人がいる時は屋根裏で寝ていた。全く気が付かなかった住人の方が、「腹立たしいし、気色悪い!」と答えていました。帰宅したら、屋根裏に全然知らない人が生活していたって、気色悪いですよ。最終的にはネットカフェにいて、出て行った後に店員が通報したという事ですね。

どうやって脱走したのか？ この愛媛刑務所造船作業所という所には塀（へい）がないんです。受刑者が収容されている部屋には鉄格子がない。決定的な事は、建物に外から鍵がかかってないのです。だから、出ようと思ったら自由に出れます。今までそこから脱走した人、十数人いるんですけど。だけど、地域住民からの苦情はそんなになかった。でも今回という今回は長かったですよね。それで法務省も重い腰を上げざるを得なくなって、顔認証システムを作るとか、GPS で追跡できる装置を受刑者につけるとか、色々検討しているという事です。

塀も鍵も鉄格子もなく、一般の作業員たちと一緒に労働できるという環境、自由なシャバと同じような刑務所作業所を作ったのは坪内寿夫（つぼうち ひさお/1914-1999）さん。来島（くるしま）ドック再生の鬼の債権者。倒れかかった佐世保重工業を再生した人。日本の造船業界がどんどんダメになっていった時に、片端から再生させた人です。この人の話はテレビドラマにもなる、小説にもなる、四国の御大将という有名な方。

彼は戦争が終わった時、泣く子も黙るソ連軍に連れて行かれ、シベリアの収容所で 3 年間、人間扱いされないような囚人生活を送り、辛さの中で「囚人だって人間なんだ」という事を心に焼き付けました。それで事業で大成功した時、受刑者たちが即社会復帰できるように、塀も鉄格子も鍵もない、社会にできるだけ近い環境の大井造船作業所を、彼の肝いりで造ったのです。

「せめて鍵をつけろよ。どうして鍵がないのか？」と言われた時、彼は「鍵をつけたら意味がない。」

「外から鍵をかけるというのは、『おまえ逃げるやろ』という事になってしまう。人格ある者にとって、最高のリスペクトは何なのか？ それは信じてあげる事だ」。その人に対する最高の敬意とは、「裏切られるリスクはあるけれども、そのリスクを冒してでも信じるだけの価値が君にはある」という事。信仰・信頼・信じるというのは、人格を持つ者に対する最高の敬意の表し方なのです。

なぜ聖書は「神に対する信仰が、その人を義とする」と言うのでしょうか？ 神は人格あるお方です。人格ある神に対して、人ができる最高の尊敬の表し方は「信じる」という事なのです。この方を信じて仰ぐという事。神様は言われました。「御子がした事を信じるんだ。いや、御子を信じるんだ。わたしのひとり子は、わたしの心そのもの。わたしは御子イエス・キリストが語ったように語り、御子イエス・キリストが考えているように考える神。御子イエス・キリストを信じる事は、神を信じる事と同じ事なのだよ。」

### 創世記 15:6 **それでアブラムは主を信じた。神はそれを彼の義と認められた。**

皆さんは御子を信じますか？ なぜ信仰という事を強調するかというと、人格ある者に対する最高の敬意であると同時に、誰でも出来る事だから。もう今息を引き取るという瞬間ですら出来る事です。信じるだけですから。お百度参りとか、どこどこに巡礼とか、何週間断食とか、そんなの要らない。心で信頼するというの、死にかけている人でもできます。ただ御子を信じるという事。

そんな簡単な事で、私たちの全ての罪は赦され、永遠のいのちが与えられ、神の子とせられ、天国に国籍を持ち、この地上でキリストが私たちをエスコートし、人生で様々な問題がある時に、それらを通して神様の力を現して下さるのです。

「そんな簡単な事で!？」私たちはただ信じるという簡単な事で、永遠のいのちという絶大なものを持つ事ができるのですが、この救いを完成させるために神がした事は簡単ではなかった。神にとっても生易しい事ではなかった。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに」。お与えになったという言葉は「与える」と訳す事もできますが、もう一つ意味があります。それは「見捨てる」。神は実に、自慢の息子、神の心そのものであるイエス・キリストを、あなたの罪のゆえに十字架の上で完全に見捨て、切り捨てて、裁きを振り下ろして下さるほどまでにあなたを愛した。なので、イエスを自分の救い主として信じる時、神はその信仰を義と認めて下さるのです。

最後に、一つお話をして終わりたいと思います。これも随分昔のエッセイなのですが、ポールバースイックという人が書いた40年くらい前の話。ボストンからデンバーに飛行機で移動する事になったのですが、ボストン空港に行くと、グレーのスーツを着た屈強な男たちが、空港のあっちこっちをウロウロしている。明らかにSP。要人をボディガードするために、特殊な訓練を受けた人たち。しかもアメリカのボディガードって、めちゃくちゃ恐くないですか。映画に出てきそうな、いかついのが歩いているので、客室乗務員に「何なんですか？」そしたら「言えませんが、間もなく分かります。」「間もなく分かるんですか?」「お客様には、特に間もなく分かります。」「ええっ!」

機内に入って何だろうと思っていたら、2年前まで大統領だったジェラルド・フォードが入って来た。はじめに屈強なボディガードが数人、そのすぐ後に元大統領、そのすぐ後またボディガード。ファーストクラスの席に向かってスーっと。目の前をスーっ。2年前まで大統領。今の感覚だと、オバマ元大統領が皆さんが乗っているピーチ、ピーチはあり得ないけど、触れるくらいのところをサーっと。

